

京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科  
フィールドワーク・インターンシッププログラム 2011 年度 JASSO 派遣報告書

報告者氏名 砂野唯

2008 年度 (入学・編入)

## 1. 研究課題:

お酒を主食とする社会の栄養摂取方法  
- エチオピア南部デラシェ地域の事例 -

## 2. 派遣期間:

平成 23 年 12 月 14 日 ~ 24 年 1 月 7 日 ( 35 日間)

## 3. 今回の派遣により、申請時に自身の目的としてあげた点について得られた知見を述べてください

デラシェ地域では、パルショータと呼ばれるモロコシ醸造酒が、主食として常飲されている。今回は、お酒を主食とすることの意義を明らかにすることを目的に調査を行った。主に、農村住民の生活に関する参与観察と化学分析に関する調査を行った。参与観察の結果から、この地域では、1歳半になると、お酒から栄養を摂取し始める。そして、大人達は、固形食を苦手としていることが明らかになった。また、醸造酒パルショータを日本へ持ち帰り、エネルギー、デンプン、炭水化物、脂質、タンパク質、繊維、単糖、水分の含有量を測った。そして、分析結果と、参与観察で得た 10 代から 70 代までの老若男女が 1 日に摂取するパルショータの量から、人びとが 1 日に摂取している栄養量を算出した。結果、デラシェの人びとは、殆どお酒しか口にしないにも関わらず、必要な栄養を取ることに成功していた。一般的に、穀物は、タンパク質の含有量が少ないが、穀物の中でもモロコシはタンパク質の含有量が高い。人びとは、モロコシを醸造することで、大量に摂取していると考えられる。

## 4. 自身の今後の海外への渡航や留学に向けた課題や展望について

今回の調査で、調査地の摂食方法については、ほぼ明らかになったので、今後は醸造過程に注目した調査を行いたい。調査地の醸造工程には、アルコール発酵の抑制や匂い付け、酸味付け、保存など、食事として利用するための様々な工夫がみられる。今後は、これらの醸造工程中に起こっている現象を参与観察と化学分析によって明らかにしたい。

## 5. 本プログラムに関して意見をお聞かせください。また、今後どのような留学プログラムがあれば参加したいですか？

調査のための補助をしていただき、主に金銭的な面で非常に助かりました。

もし、今回のように、現地（特に調査地）に 1 ヶ月から 3 ヶ月程の滞在が可能なプログラムがございましたら、参加したく思います。

署名